

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果

学校名	武雄市立御船が丘小学校							
1 前年度 評価結果の概要	<p>・保護者評価、学校関係者評価では、本校の教育活動に対しておおむね好意的な評価であった。本校の取り組みについて、理解・協力していただいているため、地域・学校協力の下、学校教育目標の達成ができた。</p> <p>・児童の学びを保証し、安心・安全な学校生活を目指すためにも、引き続き「チーム学校」として、児童の心と体の成長を図っていきたい。</p> <p>・成果指標（数値目標）については、取り組み内容や今年度の達成状況を見て、段階的に引き上げることを検討していきたい。</p> <p>・「読書の推進」については、今後も学校・家庭・地域と連携しながら、児童が読書に親しめるような取り組みを引き続き行っていきたい。</p>							
2 学校教育目標	一人一人の個性を尊重しながら、自ら学び、考え、判断し、表現できる創造的な知性と豊かな人間性をもつ心身共に健康な子どもを育てる。							
3 本年度の重点目標	<p>① あいさつ・返事・ありがとうが素直に言える子ども</p> <p>② 自分の考えをもち、友達との交流で考え方を高めていく子ども</p> <p>③ 進んで運動をしたり、目標に向けて努力を続ける子ども</p>							
4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価							
(1) 共通評価項目								
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的な取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・職員連絡会や校内研修等により、マイプランの取組状況を振り返る機会を設け、促進を図る。(月1回) ・TT及び少人数指導により、個に応じた指導を充実させ、基礎基本の定着や思考力の向上を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学力に関するアンケート調査で、肯定的に回答した児童が90.6%、保護者が86.4%、職員が96.8%であった。 ・マイプランと関連付けながら校内研究を計画的に実施し、授業力向上に向けた研究と、授業実践を推進した。 ・TT及び少人数指導に加え、授業力向上を目指して、協働的な学びや個別最適な学びの校内研究に取り組み、授業実践を充実させた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学力に関するアンケート調査では、3者とも肯定的回答率が高く、さらに今後とも校内研究、授業実践を充実させれば、大いに期待できると思う。 ・子どもの学力レベルや環境に応じた指導で、細かな気づきができると感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上対策C ・研究主任 ・指導法改善 ・TT少人数担当
	○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	○教員のタブレット端末を用いた、指導方法の改善率、及び、ICT機器の効果的な利活用により、授業が理解できたと感じる児童の割合を共に95%以上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修において、タブレット端末を用いた授業例の紹介および実践を行う。(年2回) ・ICT機器を活用した授業を毎日1単位時間以上実施し、効果的だった実践等を共有化する。 ・昨年度、実施率が低かった「表計算」ソフトの活用を実施できるよう、授業モデルを紹介する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教員のタブレット端末を用いた、指導方法の改善率は77.4%であり、目標の95%を大きく下回った。今後は、どういうところに苦手意識があるのか調査し、今後の研修に生かしたい。 ・ICT機器の効果的な利活用により、授業が理解できたと感じる児童の割合は94.7%であり、目標の95%を概ね達成できた。 ・職員研修において、タブレット端末を用いた授業例の紹介および実践を行なうことができた。また、昨年度、実施率が低かった「表計算」ソフトの活用を実施できるよう、授業モデルを紹介した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者評価94.7%と高く、コロナ渦でのリモート授業や家庭でのタブレット学習等への成果と期待の表れだと思える。 ・タブレット端末を利用した学習には、学校間や学校内でも差が大きくあると感じている。今後県レベルで統一した活用方法を見つけてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育情報化推進リーダー
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○年3回実施する「心のアンケート」で「学校が楽しい」と回答する児童の割合を90%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・学年でQUの分析を行い、学級経営等へ活用する。 ・道徳便りを発行し、道徳教科化と評価への保護者の理解を図る。(年2回) ・ふれあい道徳への案内を出すことで保護者の関心を高め、学校と家庭が協力して子どもたちの心の教育にあたることができるようにする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートでは、保護者・児童ともに「学校が楽しい」と肯定的評価の回答が、90%を上回ることができた。 ・11月の「ふれあい道徳」の前後に「道徳だより」を発行し、保護者の関心を高めることができた。 ・年3回「心のアンケート」を実施し、それをもとに児童一人一人と担任が個人面談の時間を設定し、児童理解に努めることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・いずれも保護者評価が高く、我が子の心の成長を肌で感じておられる結果と思われる。また、学校への深い信頼感が感じ取れる。 ・学校が楽しいとの評価の回答が90%を上回ることができた。とても安心だ。 ・今後特別支援学級が増加していくことが予想される。子どもの心のサインを察知して、楽しく勉強できる環境づくりを継続してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育推進担当 ・各学年主任
	●児童生徒が、人権に関する知的的理解と人権感覚の涵養を通して、人間の尊さを知るとともに、あらゆる差別を見抜き、差別を許さない人格を養う教育活動	○人権集会・平和集会で実施する人権に関するアンケートで、肯定的な回答をする児童の割合を95%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回以上、職員の人権意識を高める職員研修の実施。 ・人権集会・人権週間での人権に関するアンケートの実施。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・1月実施のアンケート調査で、肯定的に回答した児童が96.4%、保護者が95.1%。 ・12月に人権集会を実施し、各学級からの「なかよし合言葉・人権標語」を発表し、校内掲示を充実させた。 ・「武雄市小中学生人権標語コンクール」に全学級で取り組んだ。 ・「人権集会便り」を発行し、全家庭に対し人権・同和教育の取組みを共有した。また、人権集会の様子は、学校便りやHPで紹介し啓発を図った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・私も人権同和教育推進会議に入っているので、子どもたちが人権集会に参加したり、人権標語を発表したりありがたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権・同和教育担当 ・低 中 高 ・各学年主任
●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの防止・解決について組織的対応ができると回答した職員100%	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケート(児童と保護者)及び児童との個人面談を年2回実施する。 ・心のアンケートを年3回実施するとともに、その都度職員連絡会等で情報を共有し、組織で対応する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケート等から、特に配慮を要する児童については、学年団を中心に解決に向けて組織で対応することを心がけてきた。今後も情報共有に努め、組織で全児童を見守っていく。 ・2月に実施したアンケート調査で、肯定的に回答した職員は100%であった。今後も組織的対応の体制を継続し、事例によっては長期的に対応していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの事例によっては、長期的に対応していくこと。よろしくお願いします。 ・特に配慮を要する児童に対して、組織的対応の体制がとられている。 	<ul style="list-style-type: none"> (主)生徒指導 (副)各学年主任 	
○「自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	○「自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがある」と答える児童の割合を90%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科や学校行事等を通して、自らの夢や目標について考える時間や振り返る場面を設ける。(学期に2回以上実施) ・友達のよいところを見つけ伝える活動を位置付けることで、自分のよさ(強み)を自覚し、互いに自己肯定感を高め合うような学級づくりをする。(QU分析をもとにした実践を2回以上実施) ・体験的な活動を通して、自分の役割を自覚し、協力するよさを実感できるような活動を設ける。(学期に1回以上実施) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的な回答が88.2%と9割に近づいており、保護者の意識でも80.9%と前回より高まっている。教師が、児童の目標を把握し、活躍場面を記すシートを作成することで児童が意識したのではないかと考える。一方で、教職員の意識は74.2%と低下しているが、目標の持たせ方への課題意識の表れだと分析できる。 ・参観授業などの児童の発表など自分の力を發揮する場面が多くなり、児童の目標を意識した行動が見られる。今後も継続的に��けることで、目標や夢を持つことの大切さを実感することにつながると考える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・早めに目標をもつことで、勉強をがんばると思うので、指導をしていただきたい。 ・子ども自身が将来の夢を自覚するには、まだちょっと難しい気がする。 ・目標をもつ大切さを実感することがとてもすばらしいと思う。続けていってほしい。 ・子どもたちの掲げた目標が達成したときに、ほめることをしてほしい。小さな目標達成でも、しっかりほめてください。そしたら子どもたちは、次の目標を見つけ出します。 	<ul style="list-style-type: none"> (主)教務主任 (副)各教科主任 	

●健康・体つくり	①「運動習慣の改善や定着化」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒70%以上(小学校60%以上、中学校80%以上の数値で学校の実情に応じて設定)	・昨年度の調査結果と比較し、記録の伸びを確認させることで、運動意欲を高める。 ・縄跳び週間を設け、全クラスで取り組ませる。 ・学習カードを活用した体育の学習を推進する。	A	・授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童が71%となり、目標を達成することができた。しかし、昨年度と比較すると約10%減少しているので、運動やスポーツに親しみを感じる児童を増やしたい。 ・縄跳び週間には、学校全体が意欲をもって取り組むことができた。	A	・運動習慣については、社会体育等に親しんでいる子とそうでない子の二極分化が進んでいるような気がする。 ・外での遊びやスポーツに親しむ児童が増えるといいと思う。	①体育主任 ②体つくり部部長
	③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	③「健康に食事は大切である」と考える児童100% 「朝ごはんを毎日食べる」児童 90%	・放送による食育指導の実施。(年3回) ・児童によるポスター作成の実施。(年1回) ・朝ごはん取り組みカードの実施。(6月、11月) ・給食試食会等を利用した家庭への啓発。 ・給食週間の設定。(年1回)	A	・6月に引き続き、11月も「早寝、早起き、朝ごはん」の取り組みを全校で実施したこと、2月に実施したアンケート調査では、肯定的に回答した児童が92.7%、保護者が87.9%であり、どちらも9割程度の達成率であった。 ・給食委員会で残菜量を減らすことに取り組んだ。特に、1月の給食週間で、残菜の状況や好きな給食ランディング、また調理員の思いなどを紹介することで、4月に比べ残菜量が減った。	A	・食事は大切であるとみんなが思っているのはいいですね。「朝ご飯を毎日食べる」児童が100%になるように。 ・朝ご飯を食べる児童の割合は90%以上ではあるが、朝食の内容は気になる。 ・食と命は直結している。そして身体を作る大切な食。家庭での指導が一番大事だと思う。 ・給食について、物価高騰で食材の仕入れ等大変と思われる。子どもたちは育ち盛りで、メニュー、量も苦慮されていると思う。	①給食指導
	④「安全に関する資質・能力の育成」	④児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・長期休み明けの交通指導の実施。(年3回) ・年度初めの交通安全教室(全学年)の実施。 ・休み前の鉄道安全教室(1年)の実施。 ・長期休み前の自転車点検の実施(年3回)	A	・長期休み前には自転車点検を実施した。また、長期休み明けには、朝の交通指導を実施した。交通指導員の協力もあり、年間を通して大きな交通事故は発生していない。 ・安全についての指導を、学校全体や各学級で随時呼びかけを行うことで、事故の未然防止に努めることができた。 ・避難訓練の実施を通して、災害時を意識した避難の仕方を確認することができた。安全・防災の意識の向上に繋げることができた。	A	・登下校を含め、安全で安心した学校生活が送れている様子で何よりだ。地域の皆さんのあたかい見守りのおかげでもあると感じている。 ・年間を通して、大きな交通事故は発生していない。 ・地域でも児童を外であまり見かけない。児童は何をしているのだろうと思う事があり、昔の子どもは暗くなるまで外で遊んでいたのに。 ・8時過ぎても登校する児童がいる。 ・この項目は、まさに学校・家庭・地域の連携だと思う。A必須である。	①安全・交通指導
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・職員室等の環境整備に取り組むことで、業務改善に向けた職員の意識の高揚を図る。 ・日常的な退勤時刻の確認、早めの退勤を促す声掛け、業務記録簿による自発的時間外勤務に係る時間の把握などにより、業務効率化に向けた意識を向上させる。 ・校務サーバーやズスキ校務、SEI-Netを活用し、校務分掌等の運営の効率化を図る。 ・週1日の定時退勤日を設定し、勤務終了後1時間以内での退勤を推進する。	B	・職員の超過勤務時間平均(4月～1月)は、4月と6月以外は45時間以内であった。また、昨年度の同月との比較においては、ほとんどの月で縮減している。 ・80時間超過勤務の職員(4月～1月)は、延べ11人(延べ割合2.4%)であった。 ・夏季休業中に3日間の学校閉園日を設定し、5日間の休暇取得を推奨した。教職員が休暇を取得しやすい環境を整備した。 ・その日の待機時刻に見通しを持たせるため、管理職が積極的に声をかけるなどし、職員の意識改善を図ることができた。	B	・時間外勤務時間が少しでも縮減しているのはいいと思うが、中には80時間超過勤務の先生もいらっしゃるようなので、全体で効率化を図ることを望む。 ・学級によって取り組みの差があった。 ・少しずつでも、周囲と比べ合わせるのではなく、自分規準で考えてほしい。マンパワーを増やすこと必須である。 ・育友会が先生方にお願いしている作業を引き続き減らしていく。(主に学年部会)	管理職
	(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目	重点取組	具体的な取組	最終評価	学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的な取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実	○要支援児童への支援体制の確立	○児童の実態把握に努め、できるだけ早期に対応する。 ○毎週の学年会で気になる児童について話し合う時間を設定する。(学年会の時間における25%を各学級の気になる児童の情報交換の時間)	・学年会で気になる児童について情報交換および指導について考える。(週1回) ・特に気になる児童は、実態把握シートをもとに、具体的な支援の方法について話し合う。必要に応じて、特支主任や持支CDが専門的な見地から相談に応じる。 ・職員連絡会で随時、児童の情報共有の時間を設けて、全職員で共通理解を図る。(週1回) ・実態把握シートと「個別の教育支援計画」に基づいて、SCや専門機関との連携を図り、より実態に応じた支援を行う。	B	・気になる児童についての情報交換は、頻繁に学年を中心に実施されている。そのため、早期の対応に結びついていると考えている。 ・気になる児童への指導などの記録が残されていることで、引き継ぎされ今後の指導に生かされることを周知してきた。そのため、今年度に指導したこと、心がけていたことなどが個別の指導計画にはおおよそ記入されていると思われる。 ・SCや専門機関との連携が必要に応じて、実施されていた。	B	・様々な個性や特性をもつ子ども一人一人に適切な指導がなされていると感じる。他の専門機関との連携もよく図られているようだ。 ・6年生の「LGBT学習会」の計画は今日的課題に対応した取り組みで高く評価できる。 ・気になる児童の指導をよくしてもらっている。今後ともよろしくお願ひします。 ・近くにも歩道で遊んでいる。親が見ているけど、時間的にも大変。 ・個別の対応をすごくされてると思う。これからもしっかり続けてほしい。	・特別支援教育主任 ・特別支援教育C ・特別支援学級担任
○地域連携の推進	○コミュニティスクールの推進と確立	○公民館を核とした地域との連携に努め、情報交換や情報発信を行う。(年2回以上) ○地域人材を招いての授業や行事を実践する。(全学年、年1回以上)	・公民館における児童関連事業の調整を行う。 ・授業や行事でのみふねサポーターの協力を推進する。 ・ホームページを50回以上更新し、学校の情報を地域等に発信する。 ・地域行事を把握し、積極的参加を児童に呼びかける。	B	・2月に実施したアンケート調査で、肯定的に回答した児童が90.8%、保護者が92.6%。 ・授業や行事においては、地域人材を招いての学習や活動を、できる範囲で昨年度より多く実施することができた。授業は3学年が総合的な学習の時間で実施、2学年が行事で実施、1学年が実施できなかった。 ・地域の行事についても、参加を呼びかけたりチラシを配布したりして、積極的参加を促した。 ・ホームページ更新は目標の50回を超えた。今後は、内容の充実を図っていかたい。	B	・今年度もコロナ禍の影響で地域との関わりを縮小せざるを得なかつたことは残念だが、次年度に期待したい。 ・地域人材を招いての学習や活動を多く実施できたこと。 ・花まるタイム、私たちも参加したい。 ・コロナは5類になり、終息が見えてきている。花まる学習の地域の参加が考えられる中、子どもたちとの交流は地域の方々も楽しみにされています。受け入れ体制等大変でしょうが、よろしくお願ひします。	・コミュニティスクール
○読書の推進	○読書の推進を図るために、朝読書・リレー家読に取り組む。	○年間貸出冊数の目標を1～2年は100冊以上、3～4年は80冊以上、5～6年は60冊以上とし、80%以上の達成を目指す。	・朝読書の時間(5分)には、必ず着席して読書するように指導する。 ・週に2回は図書室の本を借りるように呼びかける。 ・9月から「リレー家読」を始める。	B	・年間貸出し冊数は、1.2.4年は80%以上を達成した。5年は、1月末現在で75%であるので、年度末には達成できると思われる。 ・リレー家読については、学級によって取り組みの差があったが、親子で読書するきっかけができたと考える。	B	・外での遊びと本に親しむ児童が多くいるのだわかった。 ・リレー家読の進め方をもう一度話し合い、どうすれば定着するのか考えてほしい。	・図書館教育

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・保護者評価、学校関係者評価では、本校の教育活動に対しておおむね好意的な評価であった。本校の取り組みについて、理解・協力していただいているため、地域・学校協力の下、学校教育目標の達成ができた。 ・児童の学びを保証し、安心・安全な学校生活を目指すためにも、引き続き「チーム学校」として、児童の心と体の成長を図っていきたい。 ・「働き方改革の推進」については、時間を意識した業務遂行、校務分掌等の運営の効率化を図っていきたい。 ・「読書の推進」については、今後も学校・家庭・地域と連携しながら、児童が読書に親しめるような取り組みの改善を行っていきたい。
--------------------	---